

トヨタ東自大環境システム 環境活動レポート

活動期間: 2022年4月～2023年3月

- 【1】事業活動の概要
- 【2】環境方針
- 【3】環境マネジメント組織
- 【4】環境目標
- 【5】環境目標の達成状況と評価
- 【6】環境活動計画の実施状況及び評価
- 【7】環境関連法規の遵守、違反、訴訟等の有無
- 【8】代表者による全体評価と見直し



学校法人トヨタ東京整備学園

専門
学校

トヨタ東京自動車大学校

Toyota Technical College Tokyo

【1】事業活動の概要

事業者名	学校法人トヨタ東京整備学園 専門学校トヨタ東京自動車大学校
設立	1954年
代表者	理事・校長 上田 博之
所在地	東京都八王子市館町2193番地
環境管理責任者	理事・部長 若林 良弘
連絡先 (推進事務局)	総務部 今野 康裕 TEL:042-663-3211 FAX:042-663-3215
事業内容	大学校としての自動車整備士の養成に関する活動
事業の規模	敷地面積(2023年4月時点): 81,087 m ² 延床面積: 27,203 m ² 教職員数: 106人(登録対象人員) 学生数: 1,008人 学生寮居住者数: 約220人 対象範囲 校舎・学生寮他、当キャンパス内全て

【2】環境方針

トヨタ東京整備学園環境方針

(トヨタ地球環境憲章の主旨と当校の課題を踏まえて設定)

1. 持続可能な 21 世紀社会への貢献

持続可能な 21 世紀社会へ貢献するため、環境との調和ある成長を目指し、自動車整備の高等教育機関として、自動車整備士教育活動の全ての領域で、環境に配慮し、環境の保全、改善に努めます。

2. 環境教育の推進

職員にトヨタ東自大環境システムの周知徹底を図り、学生に対する環境教育を推進し、環境を意識し、卒業後の職場で環境保全活動を率先して遂行できる人材の育成に努めます。

3. 自主的な取組み

環境汚染の未然防止と環境法令等の遵守に努めることはもとより周辺地域の環境も配慮しつつ、学生も含め CO₂ 削減・廃棄物削減・リサイクル促進・水資源有効活用・グリーン購入・化学物質の適正な管理に取組みます。

4. 社会との連携・協力

政府・自治体・地域社会及びトヨタグループとの連携・協力関係を構築し、環境に対する社会的な取組みへの参画・環境政策への協力・環境保護の活動に積極的に取組みます。

5. 見直し・継続的改善

環境監査を実施して、トヨタ東自大環境システムを見直し、継続的に改善を図ります。

この環境方針は文書化し、全ての教職員・学生に周知するとともに、一般の人にも文書並びにホームページ (<https://www.toyota-jaec.ac.jp>) を用いて開示します。

2023年4月1日

学校法人トヨタ東京整備学園

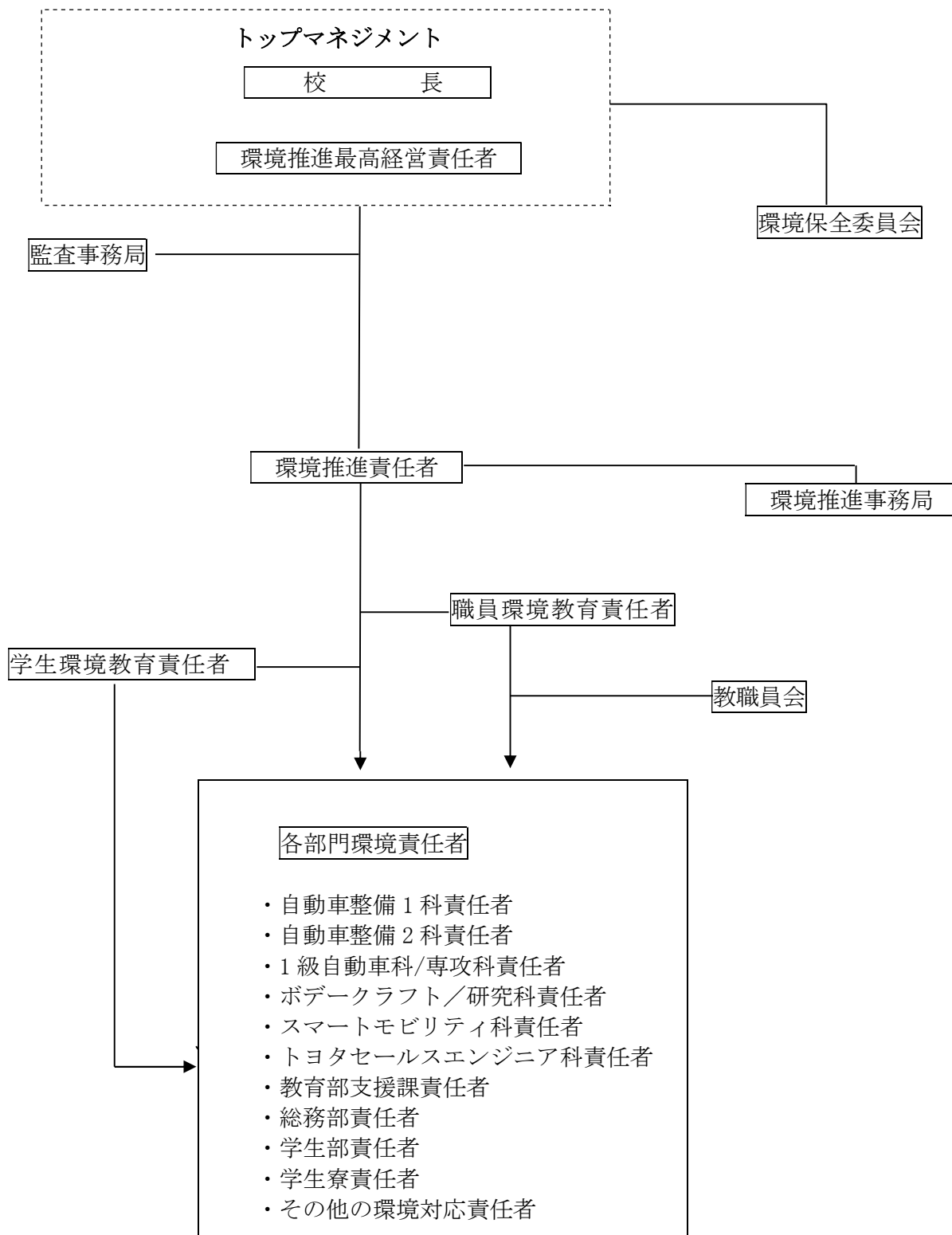
専門学校トヨタ東京自動車大学校

理事・校長 上田 博之

【3】環境マネジメント組織

EMS推進組織図

(2023年4月 現在)



【4】環境目標

環 境 目 的		環 境 目 標	備考 ※1 前年度-1%	
			2023 目標	2022 実績
豊かな 21世紀社会への 貢献	(1) 二酸化炭素排出量削減 (省エネルギー)	①電気使用量削減	109.7 万 kWh 以下 (契約電力 540kW)	110.8 万 kWh (契約電力 600kW)
		②油使用量削減	72.27k 以下	73.0kℓ
		③Co2 排出量削減※3	774.57 t-Co2 以下	782.40 t-Co2
	(2) 廃棄物排出量削減	①一般廃棄物	12.75 t 以下	12.88t
		②産業廃棄物	15.80 t 以下	15.96t
	(3) 総排水量削減	①水使用量削減	21,814 m ³ 以下	22,035 m ³
	(4) 化学物質使用量削減	①シンナー使用量 削減	295.3kg 以下	298.3kg
	(5) グリーン購入推進	①グリーン商品 購入率向上	62.6% 以上	62%
環境教育の 推進	(6) 環境に関する 教育・研究 (学生)	①自動車関連環境 保全知識の修得	自動車整備士資格 100%取得	1級整備士 93.9% 2級整備士 100% 車体整備士 100%
		②各科環境教育 カリキュラム推進	計画どおり実施	環境マネジメント意識の 高いエンジニアの社会 への輩出
	(7) 環境に関する 教育・研究 (職員)	①研修計画に基づ いた研修の実施	計画どおり実施	環境マネジメントの 周知と徹底
	(8) 社会貢献、 近隣地域との連携	①関連イベント ※4への参加者促進	1217 名	1205 名

1：2017～2021 年度にて、全実習場への空調増設及び、LED 電灯移行、並びに新型コロナ対応によるカリキュラム変更等につき 2021 年度使用実績の-1%を 2022 年度の目標値として再設定。(2017～2021 年度平均実績値は 133.9 万 kWh)

2：2021 年 8 月に大規模ソーラー発電システム（発電パネル 103kW）設置／停電時 3kW 自立運転出力可能

3：CO2 排出量の計算に使用した電気の排出係数は 0.525kg-CO2/kWh

4：八王子環境フェスティバル、梶田地区地域清掃、授業内地域清掃

【5】環境目標の達成状況と評価

【活動期間 2022/4/1～2023/3/31】

1. 環境目標と実績・評価 【評価】○:達成 △:やや未達成(目標値+15%以内) ×:未達成・未実施)

環 境 目 的		2022 年度 環境目標		実績	評価	備考
豊かな 21世紀社会への貢献	(1) 二酸化炭素排出量削減 (省エネルギー)	①電気使用量削減	116.4 万 kWh 以下	110.8 万 kWh	○	継続
		②油使用量削減	80.19kℓ 以下	73.0kℓ	○	継続
		③CO ₂ 発生量削減※2	827.83.6 t -CO ₂	782.4t- CO ₂	○	継続
	(2) 廃棄物排出量削減	①一般廃棄物	13.57 t 以下	12.88t	○	イベント中止 の為可燃減少
		②産業廃棄物	10.61 t 以下	15.96t	×	重点管理 推進項目
	(3) 総排水量削減	①水使用量削減	19,822.7 m ³ 以下	22,035 m ³	△	削減推進
環境教育の推進	(4) 化学物質使用量削減	①シンナー使用量 削減	238.9kg 以下	298.3kg	×	重点管理 推進項目
	(5) グリーン購入推進	①グリーン商品 購入率向上	61.6%以上	62%	○	継続
	(6) 環境に関する 教育・研究 (学生) 〔別表1：各科の紹介〕	①自動車関連 環境保全知識 の修得	自動車整備 士資格 100%取得	1 級整備士 93.9% 2 級整備士 100% 車体整備士 100%	△	継続
		②各科環境教育 カリキュラム推進 〔別表2～5：各科の カリキュラム〕	計画通り 実施	計画通り 実施	○	継続
	(7) 環境に関する 教育・研究 (職員)	①研修計画に基づい た研修の実施	計画通り 実施	計画通り 実施	○	継続
	(8) 社会貢献、 近隣地域との連携	①関連イベントへ の参加者促進※1	1011 名以上	※1 1205 名	○	継続

※1：八王子環境フェスティバル、梶田地区地域清掃、授業内地域清掃

※2：CO₂ 排出量の計算に使用した電気の排出係数は 0.525kg-CO₂/kWh

【6】環境活動計画の実施状況及び評価（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

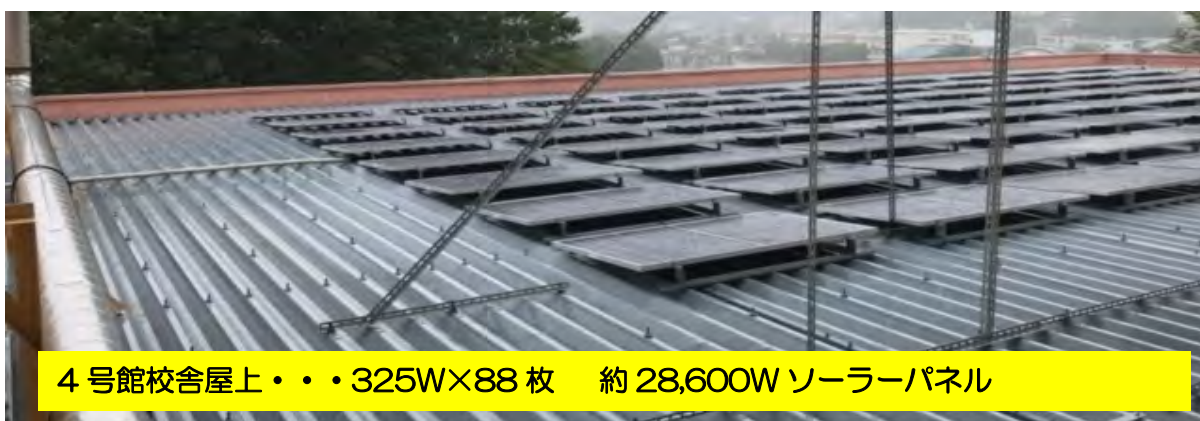
環境目標項目	達成手段	実施部門	評価	次年度課題
電力使用量の削減	①ケルビンスの実施（5 月～10 月）	各部門	○	継続実施
	②ピーク時電力節減対策の策定と実施 （2022 年度ピーク値減少 600→538）kW 2021 年 8 月より太陽光発電設置		○	デマンド値 マネジメント
	③教室温度適正化 （冷：27℃ 暖：22℃）		○	継続実施
灯油消費量の削減	①実習場室温適正化（暖：22℃）	各部門	○	継続実施
リサイクルの推進 （廃棄物排出量の削減）	①朝礼で学生へ協力を呼びかけ	各部門	○	呼び掛け強化
	②メールで職員へ周知	各部門	○	継続実施
総排水量削減	①節水の呼びかけ	各部門	○	節水の呼掛け 強化
グリーン購入の促進	①購入担当者へ周知	各部門	○	継続実施
環境に対する教育・研究 （学生）	①自動車整備士資格 100%取得 （自動車関連環境保全知識の習得）	教育部	○	継続実施
	②各科環境教育カリキュラムの推進	教育部	○	継続実施
環境に対する教育・研究 （職員研修）	①新人（その都度）	各部門	○	継続実施
	②内部監査員研修（年 1 回）	各部門	○	継続実施
	③緊急事態（年 1 回）	各部門	○	継続実施
	④朝礼・掲示・回覧により職員全員に 周知	環境推進 責任者	○	継続実施
社会貢献、近隣地域との 連携	①梶田地区地域清掃	教育部	○	継続実施
	②八王子環境フェスティバル	各部門	○	継続実施
	③授業内地域清掃	教育部	○	継続実施
	④めじろ台まつり	各部門	—	イベントの開催中止 により無評価

地産消費型大規模 ソーラー発電システム導入(2021 年 8 月より稼働)

(太陽電池モジュール 単結晶 325W×319 枚=103.67kW)

《削減効果》

- ・学校使用量の約 10%前後の電力を賄い、CO₂ 発生削減に貢献する。
- ・二酸化炭素削減……57.8 t-CO₂/年
- ・石油削減……200L ドラム缶 122 本/年
- ・森林面積……京セラドーム 13 個/年



非常電源取り出し・・・地域停電時に最大 3,000W の電源確保
商用電源停電時には太陽光発電自立運転により、
家庭用 100V の機器に最大 1,500W×2 の供給機能
があり、地域貢献にもなる。〔因みに学校には
PHEV、BEV、MIRAI(FCEV)など 1,500W の非常電源
になる車両が複数台ある〕

環境活動の事例紹介：社会貢献、近隣地域との連携

※昨年度はイベントの開催が一部再開し始めました。

八王子環境フェスティバル



6月 八王子駅前にて
地域の環境保全取組に積極的に参加
発電自転車を使って電気を作るなど

よこやま町マーチングフェスティバル



5月 八王子市内高専通りにて誘導・警備の
ほか受付等ボランティアに約100名の学生が
参加

地域清掃①



年3回実施 7月・11月・3月
学校周辺を地域の方と清掃

地域清掃②



授業終了後の掃除の一環として
各班毎に学校近くを清掃

東京医大医療センター緊急訓練①



東京医大医療センター主催の緊急医療
救護所訓練に地域住民等と共にボラン
ティア参加

東京医大医療センター緊急訓練②



訓練にて、トリアージ後に被災者を車椅子で
病院まで移動する

ハイブリッド車からの救助訓練



高尾警察との連携により、学校多目的広場にてハイブリッド車両を提供し、閉じ込められた人を救助する訓練

自家発電、蓄電池、HEMS の学習



実習棟内設置のスマートハウス
環境テーマの発表準備??

次世代燃料車の体験・学習



水素を燃料としたトヨタ ミライ
二酸化炭素排出ゼロの体験試乗



近隣小学校社会科見学(5年生)
環境対策車両などの知識も紹介

八王子いちよう祭り



11月 八王子市内特設会場にて
クラシックカーパレードの誘導・警備のほか
お祭りのちらし配りなどのボランティア参加

ゴミの分別活動



環境保全部隊
ごみの分別にご協力お願いします!

内部監査および日常の点検・監視の実施

当校では教育・内部コミュニケーションを通じて環境への取組を実施しています。決められた頻度で日常的に点検・監視を実施し、法規制や当校の手順・基準に従った運用ができるよう確認を行っています。日常の点検・監視とは別に毎年、原則 7 月に環境内部監査を実施しています。

【内部環境監査】

内部環境監査員は、トヨタ東自大環境システムマニュアルが適切に実施され、維持されているか否かを客観的にチェックし、適・否を判定する。判定結果に基づき是正を指示するとともに、トップマネジメントへの情報提供を行う。

(チェックシート参考例)

トヨタ東自大環境システム 内部監査チェックシート

監査日	担当監査員	監査対象

2017年度の内部監査における重点項目

--

監査内容

監査項目		質問内容	確認結果	判定
全部署に共通	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
部門別	1			
	2			
	3			
	4			
	5			

【7】適用される環境関連法規への遵守状況及び違反、訴訟等の有無

1. 適用される主な環境法規制と遵守状況

分類	法規制等の名称	対象設備・活動	主な対応方法
水関係	水質汚濁防止法	油水分離槽	設備日常点検
	水道法	貯水槽	保守点検、水質検査
	下水道法、八王子市下水道条例	下水道の利用	油・化学品の流出防止
大気関係	大気汚染防止法	ボイラー・塗装設備	設備日常点検
	フロン回収破壊法	空調機、自動車用エアコン	廃棄時許可業者へ引渡し
	オフロード法	フォークリフト	自主点検
	道路車両法	保有自動車	定期点検
生活環境	騒音規制法	コンプレッサー	設備日常点検
	振動規制法	コンプレッサー	設備日常点検
	悪臭防止法	トルエン(溶剤)	設備日常点検
	都市計画法	緑地、調整池、建物	緑地・樹木保全
	東京都環境確保条例(地下水関係)	地下水利用	届出、揚水量把握
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物・一般廃棄物 特別管理産業廃棄物 (廃油(引火性)・感染性医療)	産業廃棄物の分別・適正処理
	八王子市廃棄物条例	産業廃棄物・一般廃棄物	一般廃棄物の分別・適正処理
	家電リサイクル法	テレビ、冷蔵庫、洗濯機、 エアコン(学校、寮)	廃棄時に業者委託
	食品リサイクル法	食品残	食堂業者に委託
	建設リサイクル法	工事の際の発生廃棄物	工事業者に委託
	自動車リサイクル法	所有者としての適正廃棄	自動車廃棄時
化学物質、 危険物	労働安全衛生法	従業員の安全衛生	安全全般
	特定化学物質管理法(PRTR法)	トルエンなど塗装用溶剤	数量把握と該当時年次報告
	東京都環境確保条例(PRTR関係)	トルエンなど塗装用溶剤	数量把握と該当時年次報告
	消防法	灯油地下タンク、ガソリン給油 設備、少量危険物保管庫 火災・災害予防、発生時処置	設備定期点検 保安監督者の選任
エネルギー	エネルギー使用の合理化に関する 法律(省エネ法)	省エネの努力義務 第1種特定建築物、新設	工場判断基準に準拠 建築物仕様、定期報告
その他	グリーン購入法	事務用品、OA機器など	努力義務

2. 環境関連法規の違反・訴訟・苦情等

- ・昨年度、当校における環境関連法規の違反はなく、地域、近隣住民からの訴訟もありませんでした。
- ・下水道の接続に関する届出に不備があり、再度届出を行い受理されました。

【8】代表者による全体評価と見直し

代表者による 2022 年度の評価と次年度の活動に向けての指示概要。

学校全体として地域社会へ貢献をし、人と人との繋がりを大切にする事に注力するとともに、電力・燃料使用量の削減に努め、CO₂削減によるカーボンニュートラルの実現による持続可能な 21 世紀社会への貢献を目指して活動しています。

2021 年度に地産地消型大規模太陽光発電システムを導入し、約 57.8 t-CO₂/年の CO₂削減及び災害時電源供給設備として地域への供給も可能としており、今後も更に追加導入を検討し、一層の貢献を目指します。

教育については、当校の教育スローガン「技術を磨け、そして人間性も」を基本に専門の知識・技能に加えて人格形成にも力をいれた教育を進めています。環境に関しても学生と教職員に自動車及び自動車整備に係る環境影響と法規制についてカリキュラムの充実を行います。

学校敷地内には多数の樹木があり、近隣にも河川や緑地の自然が豊かです。景観、自然保全、自然とのふれあいの観点からも樹木、植栽、調整池、建物の維持保全を行います。

2022 年度活動において削減目標未達だった産業廃棄物と化学物質使用量については、重点削減対象項目として、総排水量は削減継続として取り組みを行い、目標の達成を目指します。